ニュースレターNO.17　　2024年1月10日発行

日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク

日本軍「慰安婦」被害者の声を記憶し、伝え続けます

～平和な社会、性暴力のない社会をめざして～

1月1日、2024年の幕開けと同時に石川県能登地方を震源とする大地震が起こりました。多くの方々が亡くなられ、また行方不明となり、今も捜索が続く中、電気・水道・道路などのライフラインが絶たれるなど現地の深刻な状況が伝えられています。一刻も早い被災者の救済と復旧を願い、心よりお見舞い申し上げます。

民弁のチョ・ヨンソン会長（左）からの花束を受け取る
イ・ヨンスさん（右） 2023-11-24//ハンギョレ新聞

●韓国の第二次「慰安婦」訴訟、控訴審で原告勝訴!!

11月23日「慰安婦」被害者らが訴えた控訴審判決は、2021年4月にソウル地裁が「主権免除」を適用して被害者の訴えを却下した判決を棄却し、原告勝訴としました。

この裁判は、2016年、30年間にわたって日本政府に法的解決を訴え、韓国政府に対しても外交的保護権の行使を求めてきた被害者が、最後の手段として自国の裁判所に日本政府を訴えたものです。これに対し、日本政府は国際慣習法の「主権免除」を主張して一切の手続きを無視し、応じませんでした。「主権免除」とは国家は他国の裁判権に服さないというものですが、これは近年反人道的行為や普遍的人権尊重の観点から例外規定が適用される国際的な流れになっており、実際2021年1月の第一次「慰安婦」訴訟では「主権免除」が適用されず、原告が勝訴しています。どちらの判決も、日本政府が裁判に参加していないため、原告勝訴判決が確定しています。

判決を受け、日本政府は国際法違反だと韓国政府に厳重抗議しました。しかし、これまで被害者たちの司法へのアクセス権を代替措置もなく剥奪し、国際人道法および国際人権法に違反してきたのは日本政府です。

「主権免除」が外国政府によって発生した人権侵害やジェノサイドに免罪符を与えてはならず、今回の判決はそうした国家による犯罪を被害者の自国の裁判所で裁く前例となる画期的なものです。日本軍の戦争犯罪によって踏みにじられ、生涯にわたって苦しみを背負い続けたアジアをはじめ各国の日本軍性奴隷制被害者同様に今なお世界の紛争地で侵略や戦時性暴力に苦む人々に勇気と希望を与えることでしょう。

～　目次　～

◆～平和な社会、性暴力のない社会をめざして～・・・1
◆さようなら　そして ありがとう　川田文子さん・・・・2
◆ドキュメンタリー映画「金福童」上映会を開催・・・・3
◆3.8国際女性デーに連帯して
　ドキュメンタリー映画「金福童」上映会・・・・・・・4
◆6・19紛争下の性暴力根絶のための国際デー
　今も続く沖縄の戦時性暴力　・・・・・・・・・・・・5
◆11.25女性への暴力撤廃国際女性デーを迎えて
　女性暴力撤廃デー学習会12月3日開催・・・・・・・6
◆尹美香さん裁判・その後
　「私たちが平和です。最後までともに闘いましょう！」・7
◆2023年 大阪水曜集会報告・・・・・・・・・・・・・8
◆2023スラウェシ島訪問報告・・・・・・・・・・・・・10
◆<コラム>ハルモニたちの名誉は回復されていないー
　『帝国の慰安婦』判決をめぐって・・・・・・・・・・12
◆繰り返される杉田水脈議員による
　差別・扇動と歴史否定を許さない・・・・・・・・・・13
◆追慕　亡くなったサバイバーに思いを寄せて・・・14
◆羅善学（ルオ・シャンシュエ）さん逝去・・・・・・・15
◆お知らせ / 会計報告　・・・・・・・・・・・・・・・16

●「慰安婦」問題は終わっていない

2013 年 8 月、河野官房長官談話から 30 年を迎えました。談話は法的責任を回避するなど限界はあったものの、政府自ら調査を行い、日本軍の関与と強制性を認めました。「歴史研究、歴史教育を通じて、このような問題を永く記憶にとどめ、同じ過ちを決して繰り返さないという固い決意」を表明し、今後の日本政府の取るべき姿勢を示しました。

しかし、安倍政権の下で形骸化し、歴史否定とバックラッシュは今も続いています。

日本政府は、「慰安婦」問題は 2015 年「日韓合意」をもって「最終的かつ不可逆的解決」をしたとしています。「性奴隷」を否定、「強制連行はなかった」として被害者に責任を押し付け、「平和の少女像」を「反日の像」として撤去圧力をかけることを外交方針とし、国連人権委員会からの勧告も無視し続けています。野党やメディア、有識者も含む多くが「慰安婦」問題に後ろ向きで、解決済みの立場をとっています。

日本のジェンダーギャップ指数 126 位は、長年にわたって放置され続けた女性施策や性暴力、ミソジニーなど、家父長的男性中心社会の問題を浮き彫りにしています。昨年、2017 年の性犯罪刑法改正にさらなる改正が加えられ、不同意性交罪が導入されるなど改善が行われたのは、被害当事者および支援者ら、社会の様々な層が連帯し、取り組みを積み重ねてきた成果だと言えます。実名で、自衛隊の性加害を訴えた五ノ井里奈さん、ジャニーズ事務所における性暴力・性虐待を告発した人たちの勇気に応える社会でありたいと願います。

被害者の「誰にもこの苦しみを味わわせない」「戦争だけはしないで」という願いを記憶し、これからも「慰安婦」問題の解決を求めていきます。私たちが目指す当たり前に女性の人権が認められる「明日」が、次の世代にとっての「今日」になるよう、ともに行動していきましょう。

●ウクライナとガザに停戦を

ロシアによるウクライナ侵攻から 2 年、停戦を願う人々の声は届かず、双方で多くの犠牲者が出ており、ウクライナでは女性や子どもを含む住民の被害が拡がっています。

10 月、イスラム組織ハマスの攻撃を契機にはじまったイスラエルによるガザへの侵攻が人質交換のための一時停戦をはさんで、壮絶な殺戮が繰り広げられています。パレスチナ側の犠牲者は 2 万人を超え、学校や病院を狙った攻撃では国連スタッフも犠牲になりました。イスラエルはガラント国防相の「人間の面をした獣と闘っている」という言葉が象徴するように、まさに絶滅を目的とするかのようなすさまじい攻撃で、犠牲者の 7 割が女性や子どもです。妊婦や生まれたばかりの赤ん坊の命まで奪う卑劣さはジェンダー暴力と民族浄化が指摘されています。それでも、自国の利益を優先して、人道的責任を果たさず、パレスチナの人々を見殺しにするアメリカや西側諸国の姿勢は許しがたいものです。

日本政府は昨年 12 月、国家安全保障会議（NSC）で、自衛隊が保有する迎撃ミサイル「パトリオット」を米国へ輸出する方針を決めました。平和憲法を掲げ、武力による紛争解決を否定している日本が大量虐殺を可能にする武器輸出を密室で決めたことは、戦争加害者への道を開くものです。戦争を止められるのか、今、私たち自身が問われています。

さようなら そして ありがとう

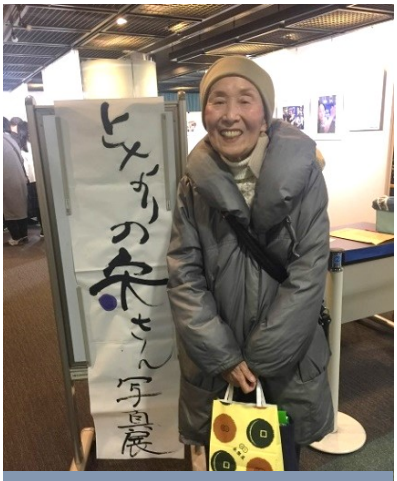
2023 年 4 月 2 日、川田文子さんが亡くなられました

享年 79 歳でした。

1977 年、新聞の切り抜きを手に、ペ・ポンギさんを訪ねて沖縄に向かった川田さん。時に幼いわが子を伴っての聴き取りは５年に及び、著書『赤瓦の家』に記録されました。そうして、戦争と性暴力の歴史が明かされていきました。

金学順さんの名のり出から始まった解決運動に参加し、取り組んだ「慰安婦 110 番」で宋神道（ソン・シンド）さんの情報を得るや、宮城県の自宅を訪ねて宋さんのお話を初めて聴いたのもまた川田さんでした。

ノンフィクション作家として現場に足を運び、直接会って話を聴くことにこだわった川田さんとサバイバーたちの出会いは、日本人「慰安婦」だった女性やインドネシアの被害女性へと広がりました。亡くなられる直前までキボタネ基金の若者たちと交流するなど、最後までサバイバーの声や思いを伝え続けました。私たちは、そのことを感謝し、受け継いでいきます。



2020 年 1 月に開催した写真展「となりの宋さん」。宋さんとの出会いについて語って頂きました。

ドキュメンタリー映画「金福童」上映会を開催

2023 年 1 月 28 日、大阪ドーンセンターで映画「金福童」上映会を開催しました。金福童ハルモニが亡くなって 4 年目を迎え、上映会と梁澄子さんのお話を聴く会を持ち、185 名の方が参加しました。韓国から宋元根(ソン・ウォングン)監督が来阪し、挨拶されました。監督は、朝鮮学校の生徒と触れ合うハルモニが涙を流された場面で「何故」と疑問を抱き、朝鮮学校の生徒達に直接会いに行って、自分も大泣きした事を話されました。

映画は、ハルモニが部屋で身支度を整える場面からはじまります。

金学順ハルモニの名乗り出を知った金福童ハルモニは、反対する家族と縁を切ってまで、勇気をもって名乗り出て、日本軍「慰安婦」問題の解決のため、証言集会に積極的に参加しましたが、解決の目途が立たず、悩み苦しんだ末、故郷の釜山に帰られます。しかし、2009 年に尹美香さんが訪問、身体も悪く、目も見えない状態だったハルモニを説得し、再びソウルに出て「女性と人権博物館」の開所式で復帰されました。

その後、世界中を訪問し、力強く日本軍「慰安婦」問題の解決を訴え、世界の戦争被害女性を支援するため「ナビ基金」を立ち上げます。2015 年の「日韓合意」に反対し、橋下市長が「慰安婦」に関して「強制連行の証拠は存在しない。あるなら韓国側が出して」と発言したことに抗議し、「私が証拠だ」と大阪市役所を訪れました。

晩年は、朝鮮学校の子ども達のために、全財産を投げうって「金福童の希望」の基金を設立し、奨学金制度を作りました。朝鮮学校の子どもたちとの交流、病床での最後の日々まで、目の離せない場面の数々でした。

梁澄子さんは、たくさんの写真を準備し、いつもハルモニと家族のように過ごされた尹美香さんや故孫英美さんたちが、すさまじい正義連、尹美香さんへのバッシングで苦しみ、今も継続していると指摘されました。バッシングの非道さは、性暴力被害者への偏見やフェミニズム運動へのバックラッシュを背景としたものです。日本政府が今も「慰安婦」問題に向き合おうとせず、誠実な謝罪や補償を行なわないでいることも、日本社会にその原因がある事を確認できました。

人権平和活動家としてナビ基金の創設や朝鮮学校の子どもたちを支援することを通して、日本社会に問いかけ、「私のように生きてごらん」と励ましてくれた金福童ハルモニ、自分で希望をつかみ取るために、これからも上映運動を続けていきたいと思います。

3．8国際女性デーに連帯して
～ドキュメンタリー映画「金福童」上映会～

国際女性デーは、20 世紀初頭、アメリカの女性労働者たちが待遇改善と参政権を求めて闘ったのが始まりです。金福童ハルモニと吉元玉ハルモニが、「日本政府が謝罪し、賠償したとしても 10 円たりとも自身のためには使わない、戦時下などで性暴力被害にあった女性たちを支援する」と、お金を出し合い、戦時性暴力被害に苦しむ女性のための「平和のナビ基金」を設立したのも 2012 年3月8日の国際女性デーでした。

そのことに連帯し、関西ネットでは、2023年3月5日（日）に、ドキュメンタリー映画「金福童」上映と、10 代女性を支える活動をおこなっている一般社団法人 colabo 代表の仁藤夢乃さんをお迎えしたアフタートークを開催しました。十三のシアターセブンを会場に、午前と午後2回の上映会は、どちらもほぼ満席の大盛況でした。ゲストが仁藤さんということもあり、はじめて関西ネットのイベントに参加される方や、若い人の参加もありました。

また、仁藤さんと colabo スタッフのほか、colabo とつながり、アウトリーチ(家に帰りづらい若い女性たちに声かけをして必要な支援をする)活動をともにしてきた女性たちも来場し、パートナーやお子さんと一緒に「金福童」を鑑賞されました。

映画「金福童」を通して、多くの方がハルモニと出会い、その名や生き方を心に刻むとともに、日本軍「慰安婦」問題が、現在の性搾取問題や、女性への人権侵害とつながることを考える機会になったと思います。

アフタートークに登壇した仁藤さんは、colabo の活動に対するバッシングの中で投げつけられた暴言や書き込みが、「慰安婦」サバイバーに対する罵詈雑言とまったく同じ言葉だったことが、「慰安婦」問題を意識した最初だったと語りました。また、平和のウリチブをはじめて訪問したとき、日本語でやさしく語りかけてくれるハルモニと会って泣いてしまったこと、それは、同情ではなく、自分がふだん関わっている少女たちと重なって見え、ハルモニの生きた過去と現在の少女たちの変わらない現状が悔しかったと話し、colabo の運営するシェルターのひとつには、敬愛する金福童ハルモニにちなんだ名前を付けていることも明かされました。

また、関西在住の colabo の仲間の女性も舞台に上がり、colabo と出会い、仁藤さんやスタッフと家族のように過ごしてきたこと、今 colabo がいわれなきひどいバッシングに遭っていること、大人は、ネットに書かれていることをそのまま信じないで、自分で確かめてほしい、決めつけないでと、語りました。

性搾取の対象とされた女性たちが、その責任を押し付けられ、差別や暴力にさらされるのは、日本軍「慰安婦」問題も現在の性暴力も同じです。私たちは今なお続く男性中心の社会構造の問題をしっかりと見据え、女性への人権侵害を許さず、ジェンダー平等社会の実現に向け、金福童ハルモニの勇気と希望の人生を記憶していきたいと思います。

6・19 紛争下の性暴力根絶のための国際デー

今も続く沖縄の戦時性暴力

―だから米軍も自衛隊もいらんねん！―

オンライン集会は定員 100 人いっぱいの皆さんが参加してくださいました。

沖縄より「基地・軍隊を許さない行動する女たちの会」の高里鈴代さんと「希望のたね基金」運営委員の近藤凛太郎さんからお話しを聴きました。

～沖縄から～

高里鈴代さんは、今も続く沖縄の戦時性暴力は、なぜ、これほど起こり続けているのか、性暴力はこんなに続いていいのか!と、沖縄の体験を話されました。

アジア・太平洋戦争において、天皇制護持の捨て石とされた沖縄は、陸軍第 32 軍が創設され、沖縄全域にのべ145ヶ所もの「慰安所」が軍の移動のたびに設置されました。植民地下の朝鮮、台湾の女性たち、辻遊郭の女性たちが性暴力の犠牲になり日本軍の輸送船で移送されたこと「慰安所」設置の状況は、日本軍「陣中日誌」県の資料にも記録されています。戦場に置き去りにされ命をなくした多くの女性たちは、沖縄戦の犠牲者を刻銘する「平和の礎(いしじ)」に一人も刻まれていないと高里さんは言われました。

4 分の1の住民を沖縄戦で失った戦後も沖縄は、日本の独立と引きかえに憲法外の米国の軍事占領下に置かれ、1947 年、天皇は「米国による琉球諸島の軍事占領の長期継続を望む」と発言しています。

軍事占領下で基本的人権もなく、米軍の性暴力は 9 ヶ月の乳児（1949 年）を含むあらゆる年齢に及びましたが、加害者はほとんど不処罰。

朝鮮戦争（1950 年～53 年）時は、住民を追い出し基地を拡張。ベトナム戦時は（1965～1975 年）帰還兵により多くの女性たちが絞殺されました。1972 年復帰後も基地は一層拡がり安全と環境を守る航空法、刑法等の法規範も日本政府は適用除外として性暴力は起こりつづけています。

「負担軽減」の言葉で日米軍事態勢を強め自衛隊配備が進められていますが、米軍であれ自衛隊であれ、軍隊、軍事主義は暴力につながるものです。暴力を補完する沈黙はやめて声をあげて軍隊の撤退、日米地位協定の改訂を求め、脱軍事・脱父権主義・脱植民地主義社会、ジェンダー平等、人権尊重、被害を訴えやすい環境をつくろうと呼びかけられました。

～キボタネ若者事業 PJ～

近藤凛太郎さんは「ペ・ポンギさんの経験から学ぶということ 若者による記憶・継承の実践」として、ペ・ポンギさんの人生に学び、ペ・ポンギさんに献呈する花を見つけるプロジェクトの実施を報告。

ペ・ポンギさんの聞き書きをされた『赤瓦の家』著者、川田文子さん（2023 年 4 月逝去）から 2 回お話しを聴いたときの印象的な言葉など、興味深いものでした。

ジャニーズ事務所の性加害や自衛隊の性暴力問題など、この間の問題にも言及し軍事主義と性暴力を生み出す背景としての天皇制の問題を指摘されました。

サバイバーに寄り添う#With You の輪を作り続けた人びとに学び絶望することなく、その輪をひろげてゆこうとの思いを最後に伝えてくださいました。

※このチラシは 2018 年に開催した集会のものです

11. 25 女性への暴力撤廃国際女性デーを迎えて

今年は、例年続けてきた、多くの人々にこの国際デーの意義を伝える街頭行動に加えて、学びを深めるための学習会にも取り組みました。

まず、11 月 24 日午後 5 時から 5 時半、大阪市役所前の御堂筋に面した歩道に 12 人が集まり、日本軍性暴力被害女性の写真などを掲げてスタンディングを行いました。この場所を選んだのは「維新の会」への批判を伝えるためで、今回新たに 2 種のボード（歴史を歪曲し格差を拡げる「維新政治」NO!・「平和の少女像」の意味がわからん維新はいらんねん!）も用意しました。

すぐ横の中之島公園へイルミネーションを見に来た人々が私たちの掲げるバナーや写真にも目を向けてくれました。
中には、私たちの日頃の活動に「ありがとう」と言ってカンパをくださる方もいて、とても励まされました。

11・25 女性暴力撤廃デー学習会 12 月 3 日開催

〈メディアは「慰安婦」問題の何を、どう伝えてきたか〉

小川たまかさん（ライター）

取り組みのふたつ目は、性暴力をなくすため発信を続けるライター小川たまかさんをお迎えしてお話を聴き、オンラインでの視聴もできるようにしました。

2015 年、ネットニュースの「痴漢も人を選ぶと思いますけどね」という男性ライターの言葉をきっかけに性暴力の取材を始め、性犯罪裁判を傍聴するようになった小川さん。その後、ブログに自分の痴漢被害体験を書くと、共感の投稿もあったものの、非難や嫌がらせが多くありました。加害者を支持する人たちの心には「ミソジニー（女性嫌悪）」があり、性暴力を許す女＝良い女、性暴力を許さない女＝悪い女と考えていると指摘します。

2016 年に「私たちのストーリー」というサイトが立ち上がって、多くの女性が辛い体験を書き、2017 年には伊藤詩織さんが記者会見を開き、日本に「#MeToo」が上陸して、性暴力を語りやすくなりました。2019 年 3 月、4 件の性犯罪無罪判決が大きな話題となり、それに抗して各地で「フラワーデモ」が始まります。その後、4 件中 3 件が高裁で有罪となったのは、声を上げる人たちが現れ、注目が集まったからこそといえます。

2020 年、刑法のさらなる改正のために検討会が設置され、委員に被害当事者も加わったことで 2023 年 6 月には時効の見直し・性交同意年齢の引き上げ・配偶者間の性暴力明文化などの改正に至りました。女性たちが声をあげたことが社会の変化につながったといえます。

とはいえ、家父長制に囚われた警察・弁護士・学者らが女性たちの声を抑え込もうとする風潮は依然として存在します。小川さんは、女性たちの語りを許さない、根深いミソジニーの根っこに「慰安婦」問題がある、そこを変えないとミソジニーは支持され続けると語りました。日本軍「慰安婦」問題の解決なしに性暴力のない社会を創ることはできないと改めて痛感させられました。

関西ネットからは 30 年を経て「慰安婦」問題が女性の人権問題という本質から離れ、政治・外交問題として、政府の見解に基づく報道しかされなくなり、被害者の声はますます伝えられなくなったこと、それでもあきらめずに行動していこうと呼びかけました。

尹美香さん裁判・その後

「私たちが平和です。最後までともに闘いましょう！」（金福童）

2020 年に始まった「慰安婦」問題解決運動へのバッシングと、尹美香前正義連代表らに対する補助金管理法、詐欺、寄付金品法、業務上背任など数々の容疑を並べ立てて始まった裁判で 2023 年、2 つの判決が出ました。

2 月、ソウル地裁は 2 年半に及ぶ審議を経て業務上横領の一部のみについて 1700 万ウォン（約 170 万円）の罰金とする実質無罪判決を下しました。

ところが、わずか半年後の 9 月、ソウル高裁はまともな審議もないまま、地裁判決を破棄し、国庫補助金管理法違反、寄付金品法違反、業務上横領について有罪とする懲役 1 年 6 ヵ月、執行猶予 3 年、罰金 2000 万ウォン（200 万円）とする判決を下しました。共謀したとされた挺対協・正義連の活動家は無罪から 200 万ウォンの罰金を言い渡されました。

審議の過程で新たな証拠は出てきませんでした。むしろ出廷した検察側の証人たちは、尹美香議員に有利な証言をし、検察が証人を罵倒する場面さえありました。半年もの間、完全な無罪を証明しようと 10 年前の記憶をたどって領収書や支払い証明書集めに奔走した成果をもって迎えた裁判で罰金が増額されるとは！

ソウル地裁判決時、韓東勲（ハン・ドンフン）法相が「新しい検察で最後まできちんと捜査して明らかにしなければならない」と発言、迅速な裁判を強調して 9 月 20 日判決という着地点まで準備されていたことをみても、結論ありきの判決だったと言わざるを得ません。尹錫悦大統領の側近であり、後継者と言われる韓東勲法相は 12 月 26 日に法相を辞任し、与党「国民の力」非常対策委員長に就任するや「運動圏特権政治」を清算しなければならないと発言、厳しい状況が予想されます。裁判は現在上告中で、大法院判決を待つことになります。

尹錫悦大統領の下で進む歴史否定や南山「記憶の場」公園から日本軍「慰安婦」追悼造形物が撤去されるなど、記憶の抹殺が進む中、被害者を記憶していくことの重要性を今一度胸に刻みましょう。

「今も世界各地で私たちのように性暴力被害を受けている女性たちを助けたい」と立ち上がった金福童ハルモニと吉元玉ハルモニ。その意思を引き継いで今年も力強く歩みます。

新年を迎えて
尹美香さんからのメッセージ

2024 年の新年、誰もがともに笑いあえる平和を実現するために、より大きな一歩を踏み出す関西ネットワークの日々でありますように。
被害者の人権と名誉回復のために休むことなく走り続けてきた関西ネットワークのみなさん、ありがとうございました。

2023 年 大阪水曜集会 報告

毎月第一水曜日 19 時からヨドバシ前＆ZOOM オンラインで会いましょう

2023 年当初は、新型コロナ感染症対策で、30 分以内の開催、参加者にはマスク着用と事前の検温、間隔をあけて並び私語をしないなどお願いしての開催でしたが、夏ごろからは 1 時間の街頭行動の集会を行うことができ、徐々に参加者も戻ってきてくれました。

みなさんと 1 か月に一度会えるこの集会は、「慰安婦」問題の解決を求めることとともに、戦時性暴力を訴えた被害者の勇気を忘れず、女性に対するあらゆる暴力を許さないことを確認する関西ネットにとって大切な活動です。これからも水曜集会で声をあげていきます!

第 196回 1 月4日

- 2022年に亡くなった被害者を追慕
- 1 月 28 日（土）映画「金福童」上映会のおしらせ
- 12 月ソウルの水曜デモ参加メンバーからの報告
- 杉田水脈議員のヘイト発言抗議

第 197回 2 月1日

- 「金福童」上映会報告
- 尹美香さん裁判の判決が迫っており、心を寄せていくことを確認

第 198 回 3 月1日

- 尹美香さんに対する裁判判決の報告
- 国際女性デーのアピール

第 199回4月5日

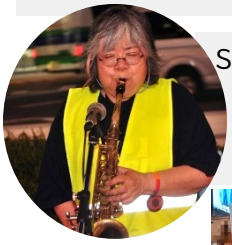
統一自治体選挙のため、JR 大阪駅南口広場で開催

- 尹美香さん裁判、ドイツの「平和の少女像」の撤去に 480 名もの抗議、徴用工問題は植民地支配と現在の問題は地続きと報告
- 「カジノ」「IR」問題についてアピール

第200回5月3日

- 2023 年 5 月 3 日に大阪水曜集会は 200 回目を迎えました
- コロナ禍でも web&zoom で、休むことなく開催し、「慰安婦」サバイバーに寄り添い、加害の歴史に向き合う場として、これからも性暴力のない社会の実現をめざしてアピールを続けます

亡くなられた全ての「慰安婦」被害者と故川田文子さんに追悼



Swing MASA さん「Don't Kill（殺すな）」サックス演奏

カードセッション「花ばぁば」

「パウィチョロン（岩のように）」の後、200 回の声明文を読み上げました

第201回6月7日

- 3人のハルモニたちを訪問した訪韓報告
- 「入管法」法廃案を求めるアピール
- 6・19 紛争下の性暴力根絶のための国際デーアピール
- 小学校教科書採択問題
- 公演「マリヤの賛歌―石の叫び」

第 202 回 7 月 5 日

- 「6.19 紛争下の性暴力根絶のための国際デー」集会報告
- 子どもたちに渡すな!危ない教科書 大阪の会からのアピール
- ジャニーズ事務所の性加害問題についてキボタネ運営委員報告
- 3 人から参加者アピール

第 204 回 9 月6日

- 関西ネットから関東大震災から 100 年。日本政府の姿勢を批判
- 前挺対協事務局長の梁路子さんから裁判闘争の経緯と感謝
- 全国行動の仲間から日本人が忘れてはならないことをアピール
- その他、たくさんのゲストが参加

第205 回 10 月4日

- 9 月の尹美香さんの裁判傍聴報告と国際署名への協力願い
- 福岡・長崎の植民地主義の歴史をたどるフィールドワーク報告
- インドネシア訪問、現地報告
- オセアニア地域の「慰安婦」問題について
- 阪神連絡会水曜デモ 15 周年の集会報告

第 206 回 11 月1日

- 2 つの性暴力事件から身近なサバイバーの話しを聴いて信じようと関西ネットから呼びかけ
- イスラエルのガザ攻撃に抗議のアピール
- 2002 年にガザ地区を訪れた参加者からアピール

★即時停戦と、できることをしよう!と呼びかけ、シュプレヒコール!!

第 207 回 12 月6日

- 11・25 女性暴力撤廃国際デーのスタンディングと集会の報告
- 朝鮮高級学校無償化連絡会から厳しい状況でも子ども達は元気
- イスラエルのガザへの殺戮被害
- ジャニーズ性暴力被害者が二次被害から自殺したと報告
- 釜ヶ崎越冬闘争へ協力呼びかけ

★今年最後は「ハナ」と「共に行こうこの道を」皆で大合唱

8・14 日本軍「慰安婦」メモリアル・デー＆第 203 回8月2日水曜集会

8・14日本軍「慰安婦」メモリアル・デーの特別企画、寸劇「金学順さんを記憶し、性暴力のない、平和な社会をつくろう!」をおこない、最後に、これからも闘う決意を表し、パウィチョロム（岩のように）を皆で踊りました

- 一人芝居「マリヤの賛歌」の俳優さんの参加
- 南京大虐殺 60 ヵ年大阪実行委員会からアピール

すいよう集会報告は YouTube からも見れます！
QR コードを読み込んでください♪

河野談話から 30 年。女性の人権や性暴力問題をめぐる社会のバッシングの背景にも未解決の「慰安婦」問題がある、そんな社会を連帯の力で変えましょうと呼びかけました。

★ホームページから水曜集会報告ごらんください
http://www.ianfu-kansai-net.org/

インドネシア・南スラウェシの日本軍「慰安婦」被害者への緊急支援プロジェクト 2021

2023 スラウェシ島訪問報告

ようやく、チンダさんにお会いすることができました♡

2019 年に南スラウェシを訪問してからはや4年、コロナ禍、燃料費の高騰などもやもやした日々をすごしていましたが、やっと、訪問することができました。前回は通訳をしてくれた鈴木さんとも日程が合わず全国行動の還暦コンビの松村＆大野で訪問しました。

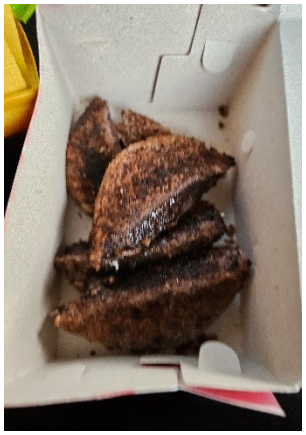
8 月 28 日に関西空港を出発しシンガポールを経由して、スラウェシ島マカッサルには 29 日の夜に到着。現地で支援プロジェクトを担ってくれているヌールさんと夕食を食べて、翌 30 日の打ち合わせをしました。今回レンタカーを運転してくれたのはヌールさんの職場の同僚のイダさん。ヌールさんと同い年の女性です。

30 日の 9 時にホテルまで迎えに来てもらい、空港でできなかった両替所に。（帰りに空港で聞いたらコロナ禍で空港の両替所は閉まっていました。）

そして、訪問目的の一つ目、ミンチェさんのお墓参りをしました。お墓の入り口に墓守りの女性たちがいて、お水とお花を買うことができます。一緒にお墓までいくとその女性たちがお墓を掃除してくれました。

「みんなミンチェさんのことを忘れないよ。もっともっと会いたかったね。」と言いながら、お墓にお花をちらして水をかけてきました。

それから、パレパレまでの片道 3 時間（往復は 6 時間やぁ～）は、あまり快適とは言えない道路で、たくさん走っているオートバイ、ダンプカーの間をぬってのドライブでしたが、イダさんは手慣れていて疲れも見せず運転をしてくれ、ふたりの気遣いで楽しい時間でした。



ようやく、お会いしたチンダさんは、写真でみるより元気そうで少し安心しました。

前回と同じように共同住宅で暮らす人がたくさん出てきて私たちを歓迎してくれ、テーブルには手作りお菓子が並んでいました。チンダさんは痛風のため歩くのが辛く、白内障のため目も見えにくくなってお菓子作りができないため、大家のアニさんが作ってくれたそうです。

おなかも痛いと言うチンダさんを病院にアニさんが連れて行ってくれているそうです。目の手術は怖いからとチンダさんが嫌がっているとアニさんは微笑んで話してくれました。

今回、アニさんの夫にも会うことができました。長時間、椅子に座っていると疲れるチンダさんのサンダルを揃え、ベッドまで手をひいて連れて行くなど、気遣っている姿をみました。長くひとりで生きてきたチンダさんですが、今はもうひとりではないということがわかり安心しました。チンダさんへのインタビューを動画で撮ってきましたので、編集ができ次第お知らせしたいと思います。

ヌールさんの話では、マカッサルの被害者は全員亡くなられたそうです。被害者を定期的に訪問することは続けているということですが、今回、現地支援団体の中心地カロシには行けなかったので、現状はわかりませんでした。前回お会いした、ドリさん、ヌライニさんはお変わりないということでしたが、かなり高齢となられているはずで心配です。

今後も、継続して支援金の手続きをするとヌールさんは答えてくれました。仕事も忙しいのに煩雑な面倒な手続きをやってくれるヌールさんに感謝です。次回訪問については、全国行動での議論を踏まえて考えていきたいです。

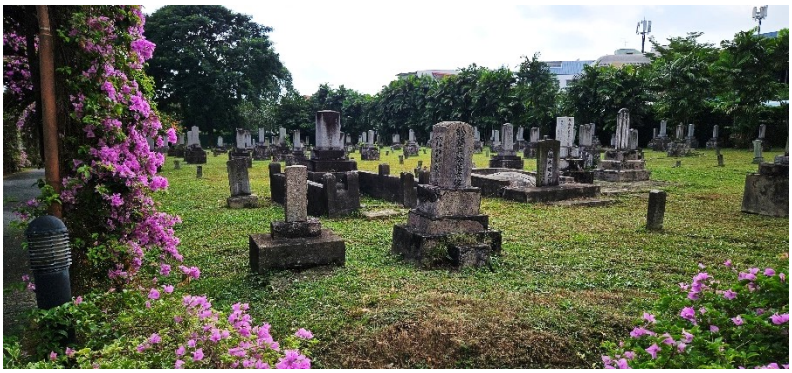
目をつぶると笑顔のチンダさんが思い出されて、ほんわかします。行ってよかったぁ～

おまけの報告★シンガポール編

今回の訪問は、シンガポールでの乗り継ぎが 17 時間もあったため、ホテルに宿泊して見学しました。

ご存じのとおり、1942 年から日本軍が占領してシンガポールは「昭南島」と呼ばれ、ラッフルズ・ホテルなどが接収され、昭南神社などが建立され敗戦まで統治されていました。

マーライオンで有名なマリンパークから歩いてすぐのところに「戦争記念公園」があり「日本占領時期死難人民記念碑」が、そびえています。中国系住民多数を虐殺した「シンガポール華僑粛清事件」の追悼碑で「血債の塔」と呼ばれ、今でもここで追悼式が行われているそうです。



また、東南アジア最大の日本人墓地を訪れました。

この地で亡くなった日本人が眠る墓地として、多くの「からゆき」さんや、戦前に活躍した日本人や戦犯処刑者も眠っています。墓標に「長崎」「熊本」「天草」「島原」などと書かれているのがありました。名前もない小さな墓標もたくさんあり、売られてここで亡くなったたくさんの女性のことを思い胸が痛みます。日本軍「慰安婦」制度は、公娼制度からつながっていて、現在まで脈々とつながっている日本社会の性暴力の連鎖ということを実感しました。

＜コラム＞ハルモニたちの名誉は回復されていない―
『帝国の慰安婦』判決をめぐって

10 月 26 日、韓国大法院（最高裁）は『帝国の慰安婦』の著者・朴裕河（パク・ユハ）世宗大学名誉教授について、2 審判決を破棄し、審理を高裁に差し戻しました。原告・「慰安婦」被害者の方々が訴えた名誉棄損については、学問的主張もしくは意見の表明であるとして名誉毀損とはみなされず、高裁で無罪判決を受ける公算が大きいといわれています。

2017 年 1 審で敗訴　ハンギョレより

この裁判は、2014 年 6 月にナヌムの家に暮らす「慰安婦」被害者 9 名の方々が本書の記述が名誉毀損にあたると提訴、1 審は無罪で、被害者の方々はこれに強く激怒し控訴を求めました。2 審では一転、名誉毀損が認められ有罪判決が下されました。それを不服とした朴裕河さんが大法院に上告し、6 年後の今年、上記の判決となりました。

この判決について日本のメディアは、「『学問の自由』抑圧の懸念回避」（毎日新聞）、「慰安婦判決、学問の自由守られた」（朝日新聞）、「学問の自由を尊重する妥当な内容」（東京新聞）などと評価しています。

しかし、そもそも訴えた被害当時者にとって「学問の自由」や「学術的な研究」は自分の問題ではなく、尊厳は回復されていません。本書の記述の、例えば「それは朝鮮人慰安婦と日本軍の関係が、基本的には、同志的な関係だったからだ」という表現は、騙されたり強制的に連行され「慰安婦」を強いられ「地獄」を経験した被害者にとっては屈辱的言葉ではないでしょうか。被害事実を伝えるために二次被害を生んではなりません。「学問の自由」のために人権が侵害されていいはずがありません。被害者はこの怒りをどこに向けたらいいのでしょうか。

判決は、「本書は日韓関係の和解のため書かれた」としていますが、事実を正しく認定し、謝罪し、被害者が受け入れてこそ新たな関係が築けるのであって、第三者が「和解」を言及することではありません。

昨年来、Colabo へのバッシングや行政の支援放棄があり、ジャニーズ性暴力問題、自衛隊内での性暴力問題など様々な性暴力問題が明らかになり、その被害への認識が問われました。被害当時者の多くの方々は「二度と被害を繰り返さないために」と告発しています。メディアは賠償を問題にしますが、当事者の方々は心からの謝罪と再発防止を何より求めています。そのために被害の背景や人権侵害について当事者に寄り添う解決策を追究すべきで、賠償はそれに伴うものです。

同じように「あったことをなかったことにしないで！」と尊厳回復を 32 年前から叫んできたのが日本軍「慰安婦」被害者の方々でした。決して日韓の政治問題ではなく、賠償問題でもないことを日本政府やメディアは心に刻み、問題に向き合うべきです。

今年、原告のお一人の李玉善（イ・オクソン）さんにお会いした時、「日本政府はまだ謝罪をしていない！」と大きな声で言われました。日本軍「慰安婦」の事実認定と公式謝罪を実現することを通して性暴力のない人権が尊重される社会を築いていきましょう。

李玉善（イ・オクソン）さん

繰り返される杉田水脈議員による差別・扇動と歴史否定を許さない

2022 年 12 月、日本軍「慰安婦」問題解決全国行動は杉田水脈総務大臣政務官の更迭を求めて抗議声明を出しました。2016 年にジュネーブで開催された女性差別撤廃委員会に出席、マイノリティの人権を訴えるために民族衣装を着て参加していたアイヌや在日の女性たちの写真を無断撮影、SNS などで写真をあげ、「チマチョゴリやアイヌの民族衣装のコスプレおばさんまで登場。完全に品格に問題があります」などと攻撃していたことが国会で取り上げられたことを受けての事でした。

ネット上のヘイトや誹謗中傷を取り締まる立場にある総務省政務官にヘイトスピーカーである杉田議員を任命したこと自体があってはならない人事でした。「適材適所」と抗弁し続けた岸田首相の無責任さと政府・自民党の差別や人権に対する認識が問われる事態に、政務官は辞任したものの被害当事者への謝罪の言葉はありませんでした。

2023 年2～3月、差別発言を受けたアイヌ女性と在日女性が札幌と大阪の法務局に人権救済を申し立て、9 月には「人権侵犯」が認定され、杉田議員に対して啓発が行われました。本来なら議員辞職すべきところ、同時期に自民党環境部会長代理に就くなど理解不能、人権感覚ゼロの対応です。

その後も杉田議員は YouTube や SNS 上でアイヌ・在日の女性たちをさらに傷つけ、あざ笑うかのような発言を繰り返しました。「逆差別」「利権差別を利用して日本を貶める人たち」「差別がなくなっては困る人たちと戦ってきた」「言論弾圧」「差別にかかわる特権は存在する」などの誹謗中傷が支持者らによって擁護、拡散され続けています。それでも岸田首相は「議員の発言に一つひとつコメントすることはさし控える」と放置し続けています。

苦しみをのりこえ、勇気をもって声をあげた人たちを侮辱し、尊厳を踏みにじる行為は重大なヘイトクライムです。アイヌや在日、部落の女性たちは日本社会のマイノリティとして差別やヘイト言動にさらされる一方で、マイノリティのコミュニティにおける女性差別や抑圧の存在を「複合差別」と捉え、是正を訴えてきた経緯があります。

また、忘れてはならないのは、落選中だった杉田議員がなぜジュネーブに行ったのかといえば「慰安婦」問題攻撃のためだったという事実です。「慰安婦」の歴史否定のため、アメリカの右派団体メンバーらとともに現地で集会を開くなど行動していたのです。彼女が安倍政権ら右派・歴史否定勢力らのもとで国会議員として地位を築いてきたことは周知の事実です。報道ではその点が全く無視されています。

2019 年には「慰安婦」問題と関連して科研費助成を受けた研究者らを「反日」「捏造」「科研費不正利用」などと誹謗中傷し、研究者らが杉田議員を名誉棄損で訴えた裁判で昨年 5 月、原告勝訴判決が確定しました。

歴史を否定し、「慰安婦」被害者をはじめ、声をあげる女性を叩き、マイノリティへの人権蹂躙発言を繰り返すことでその地位を守られてきた杉田議員。私たちは「慰安婦」問題の根底に女性蔑視や家父長的女性差別構造があることを直視し、今年こそその根っこにメスを入れ、社会を変えていきましょう。

追　慕　～亡くなったサバイバーに思いを寄せて～

中国　方巧梅(ファン・チアオメイ)さん(1921 年生まれ)

2022 年 12 月 12 日朝、湖南省平江県で亡くなりました。101 歳でした。
18 歳で息子を出産した直後、昼食の支度をしている時、突然日本兵が来ました。
日本兵は義理の叔父を刺殺し、豚など食糧を奪い、隣家に火をつけ、方さんを連行しました。8 日後、家に帰った時、赤ちゃんは餓死していました。

韓国　李玉先(イ・オクソン)さん(1928 年生まれ)

2022 年 12 月 26 日夜、ナヌムの家で亡くなりました。
慶尚北道大邱の出身。1944 年、日本人の男に「黙ってついて来い」と言われ、同じ村から 27 人が北満州の慰安所に連行されました。たった一人帰ることができたので、娘が帰って来ない親たちから「なぜお前だけ帰ってきたのか」と責められ続け、故郷を離れました。

東ティモール　ラウリンダ・フェレイラさん

2023 年 1 月 5 日朝、亡くなりました。
スアイという町の慰安所に連行され、3 年間、昼間は道路工事、夜は性奴隷とされました。「多鶴子」と名付けられ、名前を左腕に入れ墨され、その跡がずっと残っていました。戦後、この経験がトラウマとなり、結婚できませんでした。2009 年に初めて被害を語りました。

フィリピン　ヒラリア・ビレイ・ブスタマンテさん(1926 年生まれ)

2023 年 3 月 18 日、亡くなりました。97 歳でした。
1943 年、ルソン島中部で田んぼの作業を終えたところに日本兵がトラックで来て目の前で止まり、まるで豚を放り込むようにして乗せられました。有刺鉄線で囲んだ駐屯地で、昼間は洗濯と食事作り、夜は性奴隷とされました。1 年 2 カ月後、逃げることができました。
1993 年のフィリピン「従軍慰安婦」国家補償請求訴訟の原告として闘いました。

韓国のサバイバー

2023 年 5 月 2 日、亡くなりました。支援団体が訪問すると、いつも明るく美しい笑顔迎え、別れる時は強い力で手を握り、放さなかったそうです。韓国の生存被害者は 9 名となりました。

台湾　イワル・タナハさん(1931 年生まれ)

5 月 10 日、亡くなりました。台湾の最後の生存被害者でした。
タロコ族。1944 年、日本人巡査に日本軍での雑用仕事を言われ、5 人で通いました。その内、「帰ってはいけない。別の仕事がある」と言われて、レイプされました。抵抗するとベルトや鞭で何度も殴られ蹴られ、流産（妊娠していることを知らなかった）もしました。1999 年、台湾人元「慰安婦」損害賠償請求訴訟の原告になり、東京地裁の法廷で静かに賛美歌を歌って訴えられました。

中国 王志鳳さん(1924 年生まれ)

8 月 29 日午後、海南省澄邁県で亡くなりました。99 歳でした。
16 歳の時、お米を借りて家に帰る途中、日本軍に遭遇して慰安所に連行されました。昼間は塹壕掘り、夜は性奴隷とされました。少しでも抵抗すると殴られるという過酷な状況を生き延びましたが、心と身体に残った傷の痛みは一生消えることがありませんでした。

中国 楊さん

8 月 30 日、湖南省平江県で亡くなりました。100 歳でした。
楊さんは、個人情報の公開を望まれませんでした。

被害者のみなさんは、戦後も長く辛い生活を送る中で、日本政府からの心からの謝罪と賠償を待ち続けましたが、未だにかなっていません。
ご冥福をお祈りし、「慰安婦」問題解決の声をあげていきましょう!

中国 李美金さん(1926 年生まれ)

11 月 9 日午後 10 時、海南省澄海市で亡くなりました。98 歳でした。
1941 年、村を襲撃した日本兵に身柄を拘束され、昼間は強制労働、夜は性奴隷とされました。勇気を出して抵抗し、殴られ、アザだらけになりました。10 日以上経って逃げることができましたが、暗闇と当時の記憶を生涯恐れました。ドキュメンタリー映画「22」の最後の生存被害者でした。

フィリピン フェデンシア・ダビットさん(1928 年生まれ)

12 月 18 日に亡くなりました。
14 歳の時、ルソン島北部の市場で日本兵に呼び止められ、無視したら叩かれ、手桶の水を無理矢理飲まされ、麻縄で縛られました。ナイフで耳たぶを切り裂かれ、気を失いました。駐屯地に連行され、昼間は料理・掃除・洗濯、夜は性奴隷とされました。10 日後、ゲリラ掃討の囮として解放されましたが、日本兵は家に来てレイプし、食べ物を奪いました。戦後は PTSD に苦しみ、1993 年のフィリピン「従軍慰安婦」国家補償請求訴訟の原告として闘いました。

中国のサバイバー韋紹蘭(ウェイ・シャオラン)さんの息子、羅善学(ルオ・シャンシュエ)さん逝去

2023 年 12 月 7 日に亡くなりました。78歳でした。
母親の韋紹蘭(ウェイ・シャオラン)さんは、2019 年 5 月 5 日、99 歳で亡くなられました。
お二人は、2010 年 12 月 5 日に「女性国際戦犯法廷から 10 年・国際シンポジウム」で初めて証言され、12 月 11 日には、豊中での関西ネット主催の集会でも、会場いっぱいの参加者を前に時折涙を拭いながらお話くださいました。
(次のページにつづく)

韋紹蘭さんは、1944 年 11 月、村人や家族と一緒に山の洞窟に隠れましたが、日本兵に見つかり、赤ちゃんを背負ったまま駐屯地へ連行されて 3 カ月間、性奴隷とされました。逃げ出して家に帰った後、日本兵の子どもを妊娠していることがわかり、一度自殺を図りますが、羅善学さんが生まれました。

羅善学さんは、「周りから『日本兵の子』といじめられ、父や妹弟からも冷たくされてきた。父は母にも厳しく当たり、父に口答えすると母が泣くのでしない」と話されました。

韋紹蘭さんは「日本政府に謝ってほしい」とはっきり言われ、羅善学さんも「母にはもちろんだが、自分にも謝ってほしい」と大きな声で言われました。

地域だけでなく家族からも疎外されながら、しかしずっとそこで暮らさざるを得なかったお二人。お互いをかばい合い寄り添って生きてこられたお二人が、名乗り出て証言をされる姿に、私たちは大きく心を揺さぶられました。と同時に、日本政府が被害者一人ひとりに謝罪・賠償をしないかぎり、被害は一生続き、次世代にも及ぶことを突きつけられました。

あの時からすでに 13 年が経ちました。私たちは被害証言を聴いた記憶を大切にしながら、これからも日本軍性奴隷問題の解決を求めていきます。

関西ネット 10 周年記念
平和の碑 クリアファイル
※お求めは下の関西ネットのメールから

100 円

たくさんのカンパ ありがとうございました！

★ 今こそ、読んでください！ 日韓合意がよくわかる！
2018 年 1 月から展開した
「全国同時アクション」報告集
「日韓合意」 は解決 ではない
2018年 8 月 14 日発行 B5 版 80 頁 500 円（送料実費）
※10 冊以上ご注文の場合、送料は当方負担
出版：日本軍「慰安婦」問題解決全国行動
注文は i_zenkokukoudou@yahoo.co.jp へ

3つのサイトもよろしくお願いします。

2019 年のインドネシア訪問報告集

300 円（送料実費）
注文は、全国行動の HP から

会計報告 2023 年 1 月～12 月
(活動協力金については 2022 年 12 月 23 日より)

収入	
2022年よりの繰り越し	616,245
活動協力金	324,100
1.28「金福童」上映会参加費	174,473
1.28書籍等販売収入	33,898
3.5「金福童」上映会参加費	83,800
6.19オンライン講演会参加費	31,663
11.25女性への暴力撤廃デー講演会参加費	32,986
関西ネット10周年の集い残金	285,283
計	1,582,448

支出	
HP運営経費	57,132
ニュースレター16号発行経費	133,208
水曜集会経費	63,712
1.28ドーンセンター「金福童」上映会経費	229,880
3.5シアターセブン「金福童」上映会経費	146,143
6.19オンライン講演会経費	41,820
11.25女性への暴力撤廃デー経費	65,560
賛同金・カンパ	64,240
その他事務費用	40,388
計	842,083

差引残高・次年度繰越 740,365 円

にほｎ〒540-0038 大阪市中央区内淡路町 1-3-11 ｼﾃｨｺｰﾌﾟ上町 402 市民共同ｵﾌｨｽ SORA 気付
ＨＰ ：http://www.ianfu-kansai-net.org/
Email：info@ianfu-kansai-net.org
※賛同金カンパお願いします
郵便振替口座 00980-3-209232
日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク

日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク